

当報告の内容は、それぞれの著者の著作物です。

Copyrighted materials of the authors.

タイトル：AA 研共同利用・共同研究課題「アジア文字研究基盤の構築1：文字学に関する用語・概念の研究」
公開ワークショップ「中国西南諸民族の文字学」+2018年度第3回研究会

日時：平成31年2月16日（土曜日）午後13時30分より午後17時、2月17日（日曜日）午前8時30分より
午後15時

場所：AA研301室

報告者名（所属）

2月16日

1) 荒川 慎太郎（AA研所員）

「西田龍雄先生と中国西南諸民族の文字研究」

(Studies on the Script of Ethnicities in Southwest China by the late Prof. NISHIDA Tatsuo)

本課題について説明したのち、中国西南諸民族の文字研究に関して概観を示した。故西田龍雄京都大学名誉教授の業績から、「巴蜀文字文化圏」の提唱、象形文字（ナシ・アルスほか）を中心とした文字の相関、最後に本ワークショップに深く関係する「水書」と「水語」に関する研究箇所を紹介した。

2) 韋 述啓（貴州民族大学）

「水（スイ）文字」

(Sui Script (Shuishu))

「水書」は冠婚葬祭や天文・暦法に係る秘匿性の高い情報を記した紙の文献である。これらは水書を書ける専門家(水書先生)に吉凶判断を依頼し、結果を紙資料で受け取るものである。つまり、もとは一般の人々のコミュニケーション用途ではなかったが、2006年に無形文化として政府に登録されてから、様々な公的な行事・掲示において水書が使われ、学校でも基本的な水文字の教育や、2014年から国際標準編碼提案が行われている。

3) 福田 和展（東洋大学）

「彝（ロロ）文字」

(Yi (Lolo) Script)

彝語は方言差が大きく、既に規範化された四川省規範彝文は北部方言に特化しており、雲南省や貴州省の彝語の表記は困難である。そこで雲南省では超方言的な規範彝文を定めたが、これは表意文字と表音文字からなる。しかし、表音文字は西南官語の表記に特化され、雲南省の彝語方言を雲南規範彝文の表音文字だけで書くことができない。結果として広く使われる状態になっておらず、いまだ様々な表記法が併存している状態である。

その後一般参加者も交えて総合討論を行った。総勢25人と、想定以上の参加者を得、盛会のうちに幕を閉じた。

2月17日

4) 全員

2019年度第1回研究会に関する打ち合わせを行った。

5) 韋 述啓「水（スイ）文字研究の現在」

(Recent Studies on Sui Script (Shuishu))

前日の短いレビューと、関連する水語・水書研究の状況を報告し、出席者との議論を行った。まず、水書が水語を完全に表記できる体系ではない(読みが一定になるわけではない)ことは水族の研究者にも認識されているとの

こと。また、水文字には漢字に由来すると思われるものと、そうでないものがあるが、後者でも読みが漢字音に似るものが多い。水語にどの程度漢語音が入っているかを配慮した研究が今後の課題と判断された。

6) 鈴木 俊哉「水（スイ）文字のコード化」

(On the coding of Sui Script (Shuishu))

2006年からの中華字庫計画と、2014年からの国際文字符号化提案の展開を整理した。当初は字義で同定していたものが、次に字音、さらに字形での同定と変化したことを述べた。代表字形の選定に際し、統計的に判断するが、漢字そのままのものは除外したため、過去の水書文字表と比較すると基準が揺れることを指摘した。また、文献によっては大半が漢字で書かれるため、全ての文献を対象とすることの困難さについても紹介した。